

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
0 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境			0.40			4.2
1 音環境		4.0	0.15	3.4	1.00	3.4
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		5.0	0.50	3.9	0.50	
1 開口部遮音性能	サッシ等級T-2を使用	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	界壁の躯体厚さを180mm以上とし、Dr-50の性能を確保する。	-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.2	0.35	5.0	1.00	4.7
2.1 室温制御		2.2	0.50	5.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能	住宅性能表示制度、省エネ等級4を取得	1.0	0.38	5.0	1.00	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.0	0.25	4.0	1.00	3.8
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率	集会所で0.6%、もっとも条件の悪い代表居室(Cタイプ)で2.3%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	4.0	0.50	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	住戸部分は庇(バルコニー含む)設置、かつカーテンレールを設置。	1.0	1.00	4.0	1.00	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.2	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	F を90%採用、他のVOCも少ない。	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		3.3	0.40	3.2	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	インテリアパースを作成しエントランスのシュミレーションを行った。	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度、構造躯体劣化等級3を取得	5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	壁・天井はビニルクロス貼20年で評価。床はフローリング20年で評価。	4.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	汚水排水管・雑排水管が铸铁管A、給水管が水道用ポリエチレン管B	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4	信頼性		2.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	インターネットは光ケーブル、電話はメタルケーブルを使用。	4.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性		2.8	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1	空間のゆとり		-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
3.2	荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3	設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出	1)外構緑化指数42.7%	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	接道部分や隣地境界沿いに植栽を配置。	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2)空地率 = 100 - 45.28(建築率) = 54.71% 1)緑被率、水被率、中高木の水平投影面積 = 24.99%	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.8
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.5
1	建物の熱負荷抑制	省エネルギー対策等級4	5.0	0.40	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3	設備システムの高効率化	潜熱回収瞬間式給湯器の導入	4.9	0.40	-	-	4.9
	集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	#VALUE!	5.0	-	-	-	
	集合住宅の評価		4.9	-	-	-	
4	効率的運用		-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護		2.2	0.15	-	-	2.2
1.1	節水		1.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	プレストレスコンクリート工法(アンボンド工法)の採用	3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭に高炉セメントを使用	5.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁面と天井面に関し、躯体の内側に下地を組み内装壁を設置。	5.0	0.25	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.22	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない壁紙用接着剤を使用	4.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	全てノンフロンの断熱材を使用	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	3)地表面対策面積率 = 29.83%	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場:98戸に対して197台(201%)、駐車場:98戸に対して96台(97%)	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	1.00	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストを満たしている項目がある。広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	